

パネルディスカッション

阪神・淡路大震災30年 ～震災の経験をつなぎ、南海トラフ地震に備える

犠牲者ゼロをめざす

黒潮町の地震・津波対策



空想からはじまる まちづくり

空想をカタチにすることで、ユタかなまちになっていく。

未来は、ひとりの妄想から、はじまっていい。

このまちの海、山、空のように、でっかく自由に空想しよう。

空想をカタチにする町 黒潮町



もうそう

空想をカタチにする町

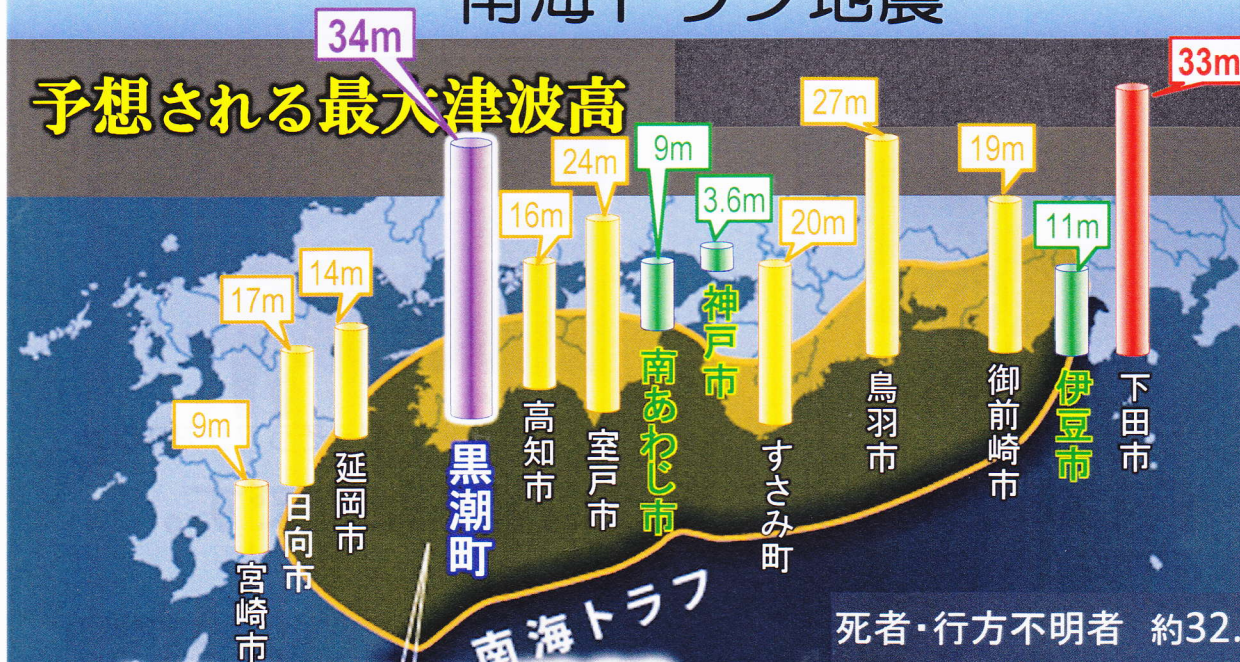
黒 潮 町

高知県 黒潮町 情報防災課

© Kuroshio Town.

南海トラフ地震

予想される最大津波高



南海トラフ 界限では

南海トラフ巨大 有名な町です
想定震源域

死者・行方不明者 約32.3万人*1

住宅全壊戸数 約238.6万棟*2
(東日本大震災の約20倍)

* 南海トラフ巨大地震は平成25年3月時点

*1 想定条件は「冬・深夜、風速8m/秒」

*2 想定条件は「冬・夕方、風速8m/秒」

黒潮町の概要

- 黒潮町は、平成18年に「旧佐賀町」「旧大方町」の合併により誕生した町です。
- 四国／高知県の中でも西南に位置しています。
- 面積188平方キロメートル。

- 人口 9,747人。

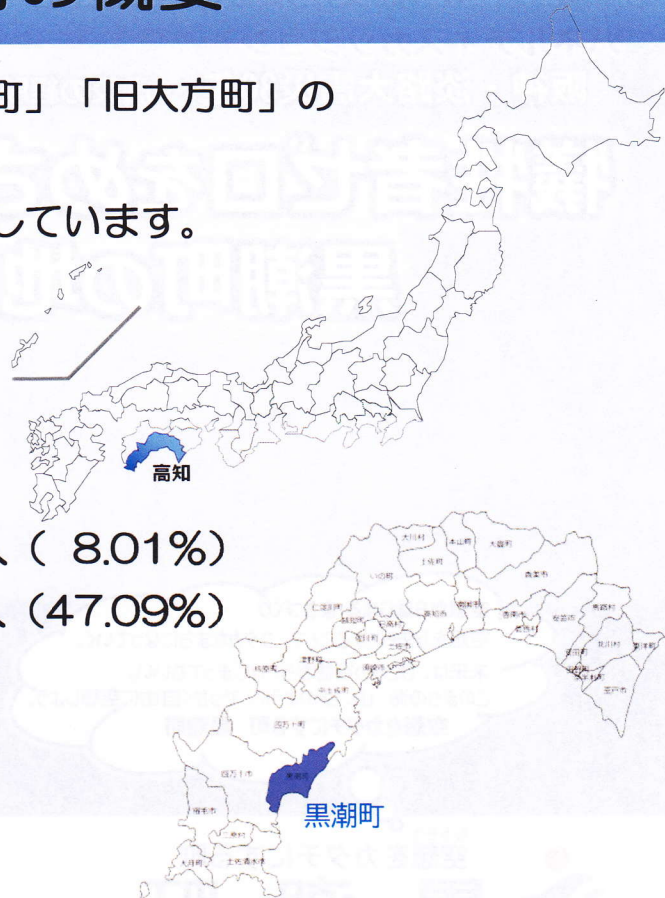
15歳未満の年少人口 784人 (8.01%)

65歳以上の高齢人口 4,589人 (47.09%)

- 世帯数 5,242世帯。

- 延長約35kmの美しい海岸線を有する町です。

※人口等はR7.8.31時点。



© Kuroshio Town.

3

黒潮町の概要



カツオの一本釣り



いごっそうアクアスロン

美しい豊かな海の恵みに満ちた町です。



Tシャツアート展



シーサイドはだしまラソン全国大会

© Kuroshio Town.

4

東日本大震災発生から、約1年後
2012(H24)年3月31日
黒潮町に突き付けられたこと・・・

✓ 黒潮町の最大震度「7」

✓ 黒潮町で予想される津波「34.4m」

✓ 高知県沿岸の津波の到達時間「2分」

0 100 200
© Kuroshio Town 5

2012.3.31ショック！ 町民からはあきらめに似た声、
“避難放棄者”を多く生み出すような危機感が広がった。

▼2012/4/1(日)の新聞内容

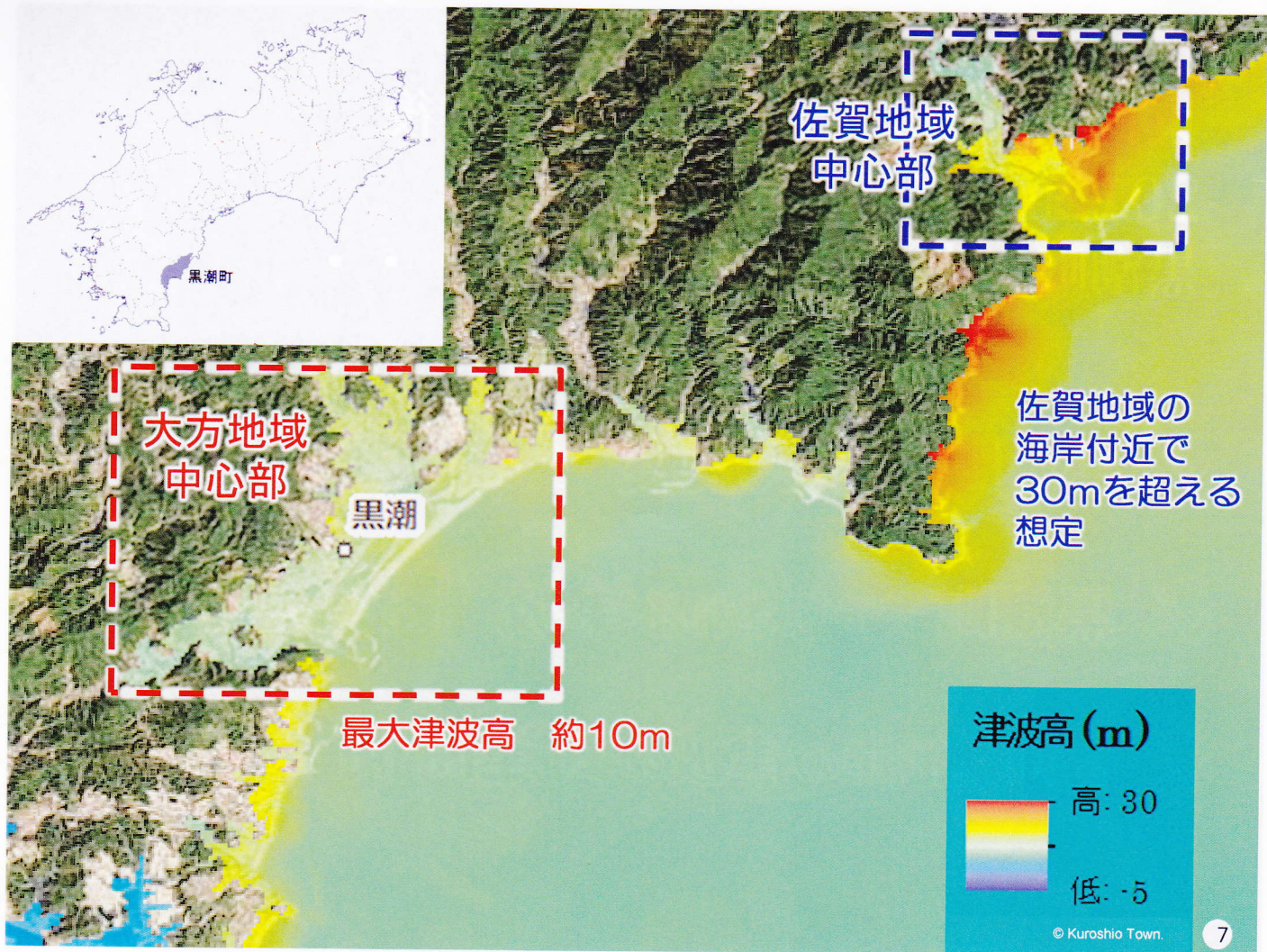
「巨大津波」に県内困惑

しかし
鳴らず・・・

役場の電話は

町が消えてしまう
平地逃げ場ない

高知・黒潮町幹部 緊急会議
「町の存続すら危ぶまれるような結果だ」



「対策」ではなく**「思想」**から入る防災
多少のことではブれない**「考え方(思想)」**
=**「避難放棄者」**を出さない



全町民が共有することばを決める
あきらめない。揺れたら逃げる。
より早く、より安全なところへ。



最大震度 7、最大津波高34m
の町で **犠牲者ゼロ**をめざす。

■施策指針の要点

「犠牲者ゼロ」をめざすためには、防災・減災が文化として、生活の中に溶け込まなければならない。
しかも、ソフト事業だけでは、「災害で命を落とさないまちづくり」は困難であり、「防災文化(ソフト事業)」と「防災文明(ハード事業)」のバランスがとれた「災害に強いまちづくり」を進めなければならない。

(ハード事業) 防災文明の整備



防災思想＝あきらめない

あきらめないためには・・・

- ・**町(行政)**は、何をしなければいけないか、
- ・**地域**は、何をしなければいけないか、
- ・**住民**は、何をしなければいけないか、

それを、**具体的(施策)**に落とし込んでいかなければならない。

(ソフト事業) 防災文化の創造



© Kuroshio Town.

9

最大震度7、最大津波高34mの町で、 犠牲者ゼロをめざす25指針

Keywordは「総力戦」

「・・・が、しなければならない防災」から「・・・で、**な**ければ**で**き**な**い**防**災」へ、地域コミュニティが防災に取り組まなければ、自分の命も家族の命も地域も守れないということを、東日本大震災では思い知らされた。その教訓に深く学ばなければならない。

1. 防災教育・啓発について
2. 学校施設整備について
3. 保育所施設整備について
4. 拠点的公共施設について
5. 指定避難場所等について
6. 備蓄品整備について
7. 災害時医療救護対策について
8. 四国横断自動車道(窪川佐賀～大方四万十道路)との連携について
9. 自動車を使った避難について
10. 情報伝達システムについて
11. 防災新技術の導入について
12. 安全な住宅地の創生について
13. 住宅耐震等の対策について
14. 防波・防潮堤及び河川堤防整備並びに漁港・港湾施設整備について
15. 産業防災対策について
16. 防災地域担当制について
17. 自主防災会の組織と機能の強化について
18. 孤立集落対策について
19. 災害協定の締結等について
20. 防災訓練について
21. 復旧から復興計画への連結、事前復興まちづくり計画について
22. 防災協力農地制度の検討について
23. 「南海トラフ地震臨時情報」に係る防災対応について
24. 要配慮者対策について
25. 目標年次

© Kuroshio Town.

10

①防災地域担当制



危機管理部署だけでは対応不可能

圧倒的な人員不足

推進エンジンの確保

全職員が通常業務に加えて

防災業務を兼務

防災地域担当制

- ・防災ワークショップ
- ・戸別津波避難カルテ
- ・地区防災計画
- ・避難訓練 など

●防災事業が短期間に大きく進捗!

●職員間の意識の差が縮小され、いざというときに**組織の強さが発揮**されやすい。

参考) 片田敏孝特任教授(東京大学大学院)講演資料一部加工

スライド作成協力)株式会社アイ・ディ・エー 社会技術研究所

© Kuroshio Town.

11

②避難空間の整備

①ワークショップ



②現地点検



③避難道を整備



④その先には避難場所を整備



【①佐賀地区津波避難タワー】 【②横浜地区津波避難タワー】

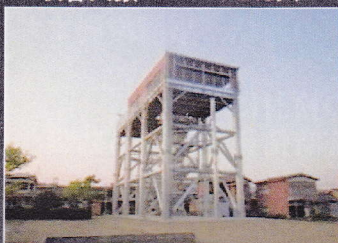
- ・2016(H28)年度完成
- ・地盤からの高さ：22.0m
- ・標高(海拔)高さ：25.4m
- ・収容人数：230人

- ・2013(H25)年度完成
- ・地盤からの高さ：11.0m
- ・標高(海拔)高さ：20.2m
- ・収容人数：130人



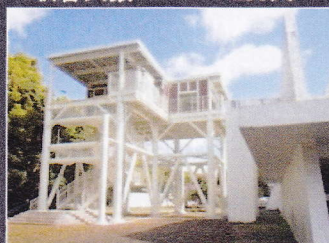
【③早咲地区津波避難タワー】

- ・2013(H25)年度完成
- ・地盤からの高さ：14.0m
- ・標高(海拔)高さ：18.0m
- ・収容人数：140人



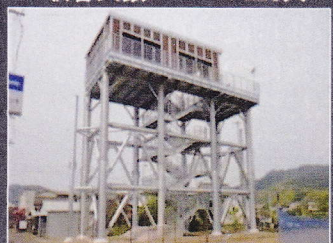
【④浜の宮地区津波避難タワー】

- ・2013(H25)年度完成
- ・地盤からの高さ：9.0m
- ・標高(海拔)高さ：17.5m
- ・収容人数：100人



【⑤町地区津波避難タワー】

- ・2013(H25)年度完成
- ・地盤からの高さ：13.0m
- ・標高(海拔)高さ：17.1m
- ・収容人数：120人



【⑥万行地区津波避難タワー】

- ・2013(H25)年度完成
- ・地盤からの高さ：14.0m
- ・標高(海拔)高さ：17.1m
- ・収容人数：300人



© Kuroshio Town.

12

避難困難区域の解消

対策・取組み: ②避難空間の整備



住民一人ひとりは何をしなければならないか…

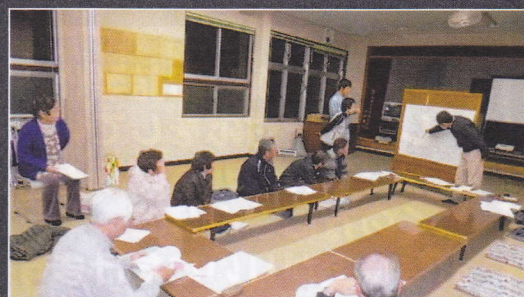
対策・取組み: ③戸別津波避難カルテ

③戸別津波避難カルテ

津波浸水が予測される地区の
全世帯の避難行動調査を実施



浸水予想40地区、283班対象に
ワークショップ開催(176回)



懇談会参加率は 約63%(2,384人)
対象となる全世帯 3,791世帯分 収集
(津波浸水の可能性40集落=283班)

世帯別津波避難行動記入シート

記入のしかた

家族構成

自力(家族)避難の可否

連絡先

避難先と所要時間

徒歩や自動車などの避難方法

防災となり組

住宅耐震状況

家具固定の状況

避難上の心配事

支援可能な方の有無

個人情報提供先



④地区防災計画

地域コミュニティが災害に強くなければ、
地域コミュニティが防災に取り組まなければ、
自らの命を守ること、
家族の命を守ること、
自らの地域を守ることもしない。

計画書を作ることを目的としていません！

では、何をするのか？



▲ 避難場所への世帯毎の備蓄

私たちが、家具固定しました！

【防災活動の特徴】

- ◆熊野浦地区は土地が広く、住民一人ひとりが自立して避難する必要がある。
- ◆迅速に避難開始するために住宅を戸別訪問して、**家具固定が必要な全世帯に**固定を実施した。

【活動の流れ】

STEP1
2016年11月19日（火曜）のちのちサロンにて、西万十町熊野浦地区の事前学習を行い、家具固定についての説明会を実施。

STEP2
2016年2月19日（金曜）などに、家具固定が必要な世帯について、全世帯対象に説明会を実施。

STEP3
2016年7月12日（火曜）などに、熊野浦地区の家具固定補助金を活用し、住民・店舗・企業・大学が連携し家具固定を実施。

100点満点の防災をすることはできないけれども、何もしなければ0点。

▲ 地区で一斉に家具固定

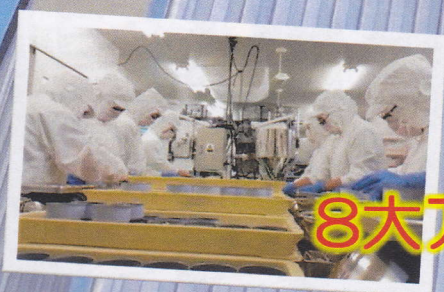
© Kuroshio Town.

15

缶詰製作所＝産業創造

株式会社 黒潮町缶詰製作所
<http://www.kuroshiocan.co.jp/>

株式会社黒潮町缶詰製作所の商品は、
アレルギー対応をしていますので、
日常であれ、非常時であれ、
多くの方に安心して
お召し上がりいただけます。
製作所スタッフが、
丁寧に、丹念に製造し、
みなさまに「おいしさ」と
「やさしさ」をお届けします。



8大アレルギー不使用!!



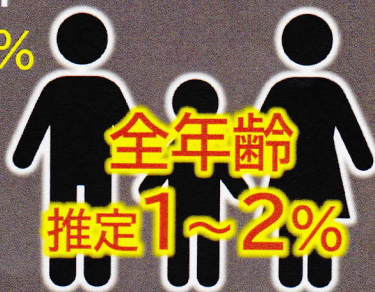
© Kuroshio Town.

16

アレルギーへの対応

食物アレルギー有症率

乳児	7.6~10%
2歳児	6.7%
3歳児	5%
保育所児	4.0%
学童以降	6.3%



8大アレルギー



引用) 国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター「食物アレルギーの診療の手引き2023」

防災基本計画(令和4年6月修正 中央防災会議)【抜粋】

第2編 各災害に共通する対策編

第2章 災害応急対策

第7節 物資の調達、供給活動

(2) 地方公共団体による物資の調達、供給

(略)

被災地方公共団体は、避難所における食物アレルギーを有する者のニーズの把握やアセスメントの実施、食物アレルギーに配慮した食料の確保等に努めるものとする。

(略)

© Kuroshio Town.

17

アレルギーへの対応

対策・取組み: ⑨町備蓄計画

もしも、も美味しい笑顔の缶詰。

8大アレルギー不使用!!



© Kuroshio Town.

18

⑩防災訓練

実際の災害発生時は訓練以上のことはできません。
黒潮町においても、**町全体、地区毎、学校毎に様々な状況を想定した防災訓練を実施**しています。



▲保・小・中・高校 合同避難訓練



▲避難所開設訓練



▲福祉避難所開設訓練



▲避難所開設訓練(夜間津波避難訓練)



▲夜間津波避難訓練

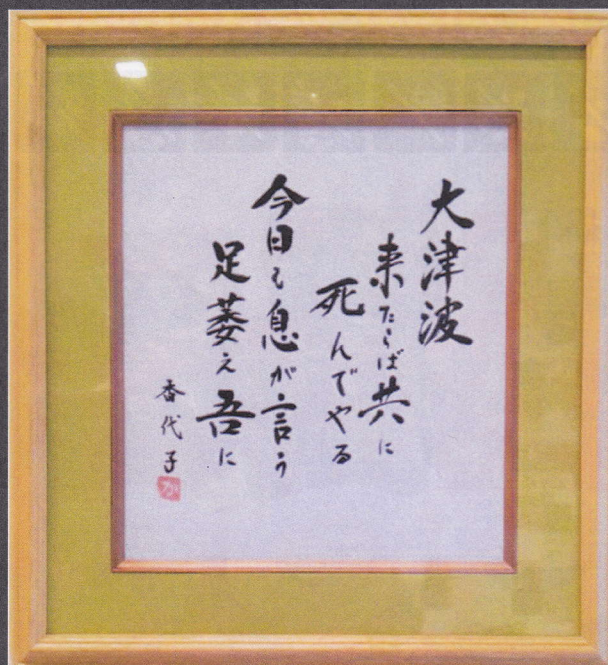


▲災害対策本部訓練

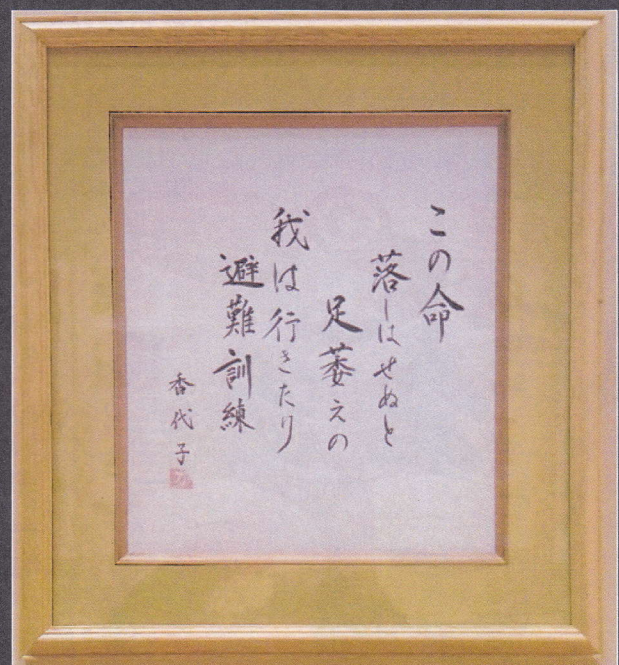
© Kuroshio Town.

19

町民意識の変化



2012年「大津波」



2014年「避難訓練」

© Kuroshio Town.

20

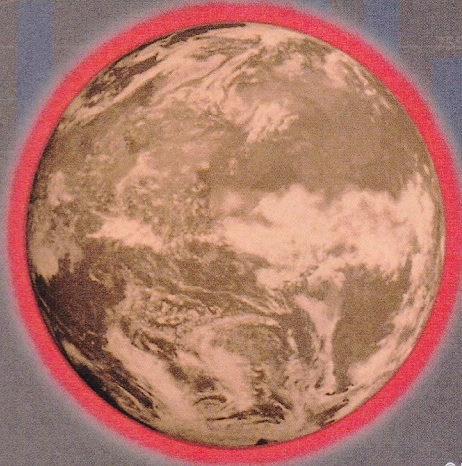
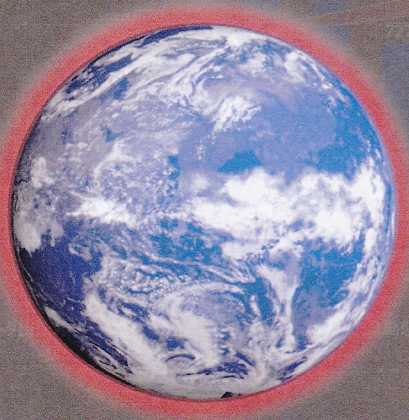
“災害級の暑さ”と言われる昨今

2018新語・流行語大賞トップ10

「地球温暖化の時代は終わり、
地球沸騰化の時代が到来した。」

アントニオ・グテーレス国連事務総長

2023.7.27



© Kuroshio Town.

21

だけじゃない

脱炭素

× 防災 × 福祉

常時(ふだん)

非常時(まさか)



・再生エネルギーの
活用による
CO2の排出削減

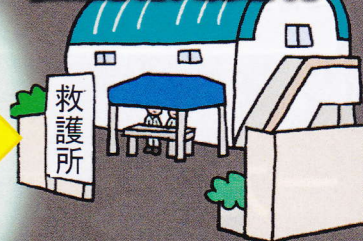
電気を運ぶ



EV車

動く蓄電池

⇒ 医療救護所



⇒ 福祉避難所



© Kuroshio Town.

22

南海トラフ地震臨時情報 2019(R1).5.1 運用開始

2024(R6)年 8 月 8 日、運用開始後、初の
南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意） 発表
南海トラフ「巨大地震注意」

自治体、
住民戸惑い

南海トラフ地震臨時情報
 南海巨大地震・初の臨時情報

▲2024/8/9 高知新聞



2024/8/9 災害対策本部会議の様子

宮崎震度6弱 M7.1

気象庁初の臨時情報

23

© Kuroshio Town

リスクの考え方

リスクとは？

南海トラフ地震の確率

通常

約0.1%



南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)



この時

1週間以内に発生する
 確率は平時と比べて4倍
 約0.4%

何か対策をしましたか？

一方で

飛行機事故の確率

約0.0036%

438年間毎日搭乗して
 1度の確立

約0.0009%

「事故の確立が約4倍になりました」



と言われたら

どうしますか？

リスクの考え方

**自動車
便利さ**



**飛行機
便利さ**



便利さ×リスク＝**バランス**
相互を受け入れる

交通事故にあう

リスク



飛行機事故にあう

リスク



**“この地に住まう” ことも
同じでは…**



参考) 片田敏孝特任教授(東京大学大学院)講演資料

© Kuroshio Town.

25

美しい豊かな海の恵みに満ちた町です。



この町に住まう“お作法”



5月 Tシャツアート展



© Kuroshio Town.

26

私たちの町には美術館がありません。
美しい砂浜が美術館です。

人と自然の付き合い方を考える 黒潮町の防災ツーリズム

黒潮町は、34mという日本一の津波に襲われることが想定された町です。
もちろん、100年のうち99.999%は、海の恵みのあふれる町でもあります。
私たちは、リスクの0.001%をさけるために、海の近くで暮らす「お作法」を**防災文化**として、育てています。

自然が持つ**恵みと災いの二面性**を理解し、その自然と上手につきあうための文化や知恵を学び「自分の命は自分で守る」ことの大切さに気付く学習プログラムです。

黒潮町
防災ツーリズム
公式サイト



© Kuroshio Town.

27

人と自然のつきあい方を考える
高知県黒潮町の防災ツーリズムのご案内

Kuroshio Town Disaster Prevention Tourism Guide

高知県 黒潮町

出典) 一般社団法人 黒潮町観光ネットワーク

災害 **にも** 強い黒潮町をめざして



ご清聴 ありがとうございました

高知県 黒潮町 情報防災課

© Kuroshio Town.



伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会 【ワークショップ】



伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりをみんなで考える会 【市民集会】



ニュースレター



10



『地震・津波による被害を減らしたい。』
『地域が衰退しないよう、生活や産業も大切にしたい。』
という思いを両立させるため、地域のあり方やみんなで協力して取り組むことを示した推進計画をつくりました。

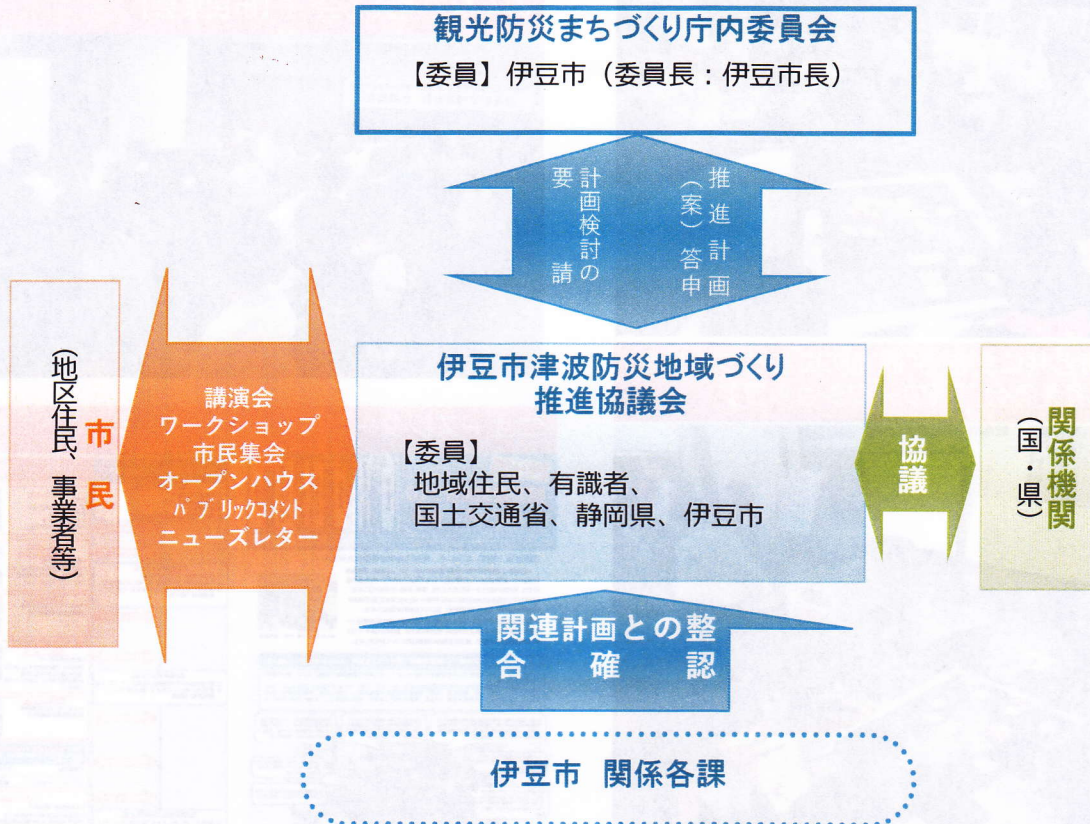
環境

海と共に生きる
まちの将来像

観光

防災

11



推進計画の策定

H28.2
検討開始

数多くの意見
交換会による
丁寧なリスク
コミュニケーション

H29.3
協議会答申

